

(中間C)

評価委員会総合評価

研究課題名：次世代リモートセンシングに関する研究

評価委員会

委員長：加納裕二

委員：菰澤 浩、露木 義、鬼頭昭雄、中村誠臣、上野 充、三上正男、
小林隆久、横田 崇、蒲地政文、緑川 貴、高橋 宙

評価年月日：平成24年3月13日

1. 総合評価

- | | | |
|--------------|--|---|
| (1) 継続の可否 | ☒ 継続 | ☐ 中止 |
| (2) 修正の必要の有無 | ☐ 修正の必要あり | ☒ 修正の必要なし |

2. 総合所見

固体化レーダーによる観測の基盤技術を確立した点を高く評価する。論文としての成果発出が少ないと認められ、論文にまとめる作業も並行して進めてもらいたい。

固体化レーダーについては、本庁での採用が予定されており、技術開発が急務である。提案されている研究体制の変更については、概ね妥当と認められるが、残り2年での組み換えが不可欠とは思われないという指摘があったことを踏まえ、本研究の進捗状況と本庁の業務化スケジュールを勘案しつつ、関係各所とよく議論して、効果的に研究が遂行できるように進めてもらいたい。

偏波レーダーデータを用いた雲・降水過程の解明については、成果が十分とは認められない。強雨を引き起こすプロセスの解明につながるような観測・解析の工夫を行い、偏波情報の利用技術をさらに推し進めるとともに、成果を創出する努力が必要と考える。